

# 中学歴史プリント（過去問類似）

## 奈良時代

名前

得点

/8

**問1** 奈良時代の平城京には、律令制度に基づいて地方から多くの物資が運び込まれました。当時の税制度である「租・庸・調」のうち、都での労働の代わりに布を納める「庸」や、地方の特産物を納める「調」が都に運ばれた実態について、正しい説明を選びなさい。（2025年 福岡県公立入試 類似）

1. 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。
2. 都の役人が地方へ出向き、それぞれの村で物資を回収して都へ持ち帰っていた。
3. これらの税はすべて、九州の防衛を担当していた防人の給与として直接送られていた。
4. 輸送中の盗難を防ぐため、すべての物資は海路を使って瀬戸内海経由で運ばれた。

**問2** 奈良時代、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため、全国は「国・郡・里」という行政単位に区分されました。このうち、都から派遣され、地方支配の責任者として行政を担った役職は何ですか。（2022年 広島公立入試 類似）

1. 国司
2. 郡司
3. 守護
4. 地頭

**問3** 聖武天皇が鎮護国家の思想に基づき、中央の東大寺に対して、日本各地の諸国に建立させた寺院の名称として適切なものはどれですか。（2017年 静岡公立入試 類似）

1. 国分寺
2. 氏寺
3. 禪寺
4. 本山

**問4** 律令制度下の十世紀ごろの戸籍には、実際よりも女子の人数が極端に多く記録されるという不自然な統計が見られます。このように男子を女子と偽って登録する行為が横行した背景として、正しい説明はどれですか。（2021年 静岡公立入試 類似）

1. 男子には調・庸や雑徭といった重い負担が課されていたが、女子はそれらの負担が免除されていたため。
2. 土地の面積に応じて課される「租」の負担が男子にのみ集中しており、女子は納税の義務がなかったため。
3. 女子の方が男子よりも口分田を多く割り当てられる決まりがあり、より広い耕作地を得るため。
4. 当時の医療技術では男子の死亡率が非常に高く、家系を存続させるために女子として登録する必要があったため。

**問5** 聖武天皇が「鎮護国家」の思想に基づいて全国に展開した政策として、最も適切な説明はどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 全国の諸国ごとに国分寺・国分尼寺を建て、都の東大寺には大仏を造った
2. 平安京に東寺と西寺を建て、全国の主要な山々に修験道の道場を開いた
3. 地方の豪族を郡司に任命し、各地の神社を管理させる制度を整えた
4. 遣唐使を派遣して最新の儒教を取り入れ、官僚養成のための大学を全国に作った

**問6** 律令国家が地方を支配するために整備した「国司」と「郡司」という役職について、その選出方法や役割を正しく説明したものはどれですか。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 中央政府から派遣された官吏が国司として地方を統括し、そのもとで現地の有力な豪族が郡司に任命されて実務を担った。
2. 現地の有力な豪族が国司として天皇から直接任命され、そのもとで中央政府から派遣された官吏が郡司として実務を監視した。
3. 国司と郡司はともに都の貴族から選ばれる決まりであり、数年ごとに全国の地方を交代で回ることによって不正を防いだ。
4. 国司と郡司はともに現地の有力豪族による世襲制とされ、中央政府が関与せずに独自の徴税を行う権利を持っていた。

**問7** 奈良時代の文化を象徴する建造物の一つに、東大寺の正倉院がある。この建物にペルシャやインドの影響を受けた工芸品が多数納められている理由として、当時の日本の対外関係をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため
2. 日本独自の国風文化が広まり、海外との交流を断って国内の伝統工芸を保護したため
3. モンゴル帝国によるユーラシア大陸の統一により、陸路での貿易がかつてないほど活発になったため
4. 仏教の伝来とともに、百済（くだら）から多くの渡来人が工芸技術を直接日本へ伝えたため

**問8** 柿本人麻呂が現在の香川県坂出市にある沙弥島（しゃみじま）に立ち寄った際に詠んだ歌が収録されていることでも知られる、奈良時代の歌集「万葉集」の構成に関する記述として、最も適切なものはどれですか。（2020年 香川公立入試 類似）

1. 防人や農民といった幅広い階層の歌が収められ、素朴で力強い歌風が特徴である。
2. 醍醐天皇の命によって編纂された、日本で最初の勅撰和歌集である。
3. 鎌倉時代初期に後鳥羽上皇の命で編纂され、繊細で情熱的な歌風が特徴である。
4. 漢字のへんやつくりの一部をとって作られた「カタカナ」を用いて、全ての歌が記されている。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。	律令国家の財政を支えた「庸」や「調」は、農民が自ら都まで運ぶ「運脚（うんきゃく）」という仕組みによって平城京に集められました。食料を持参して長い道のりを歩くこの負担は、当時の農民にとって非常に重いものでした。平城京は、全国各地の富や特産物が集まる物流の拠点としての役割も持っていました。
問2	<b>答え 1</b> 国司	大化の改新以降、律令制度の整備によって天皇を中心とした中央政府が全国を直接支配する仕組みが作られました。中央政府から各地方（国）に派遣された官吏を国司と呼び、その下の単位である「郡」では、地元の有力な豪族が郡司に任命されて実務を補佐しました。これにより、地方の情報を中央が把握し、統治する体制が整えられました。
問3	<b>答え 1</b> 国分寺	聖武天皇は、仏教の力で国を護るために、全国の国（地方行政単位）ごとに国分寺と国分尼寺を建てるよう命じました。都の平城京に作られた東大寺はそれらの総本山としての役割を担い、全国的なネットワークを通じて国家の安寧を祈る体制が整えられました。これは、地方に対する中央政府の権威を示す役割も果たしました。
問4	<b>答え 1</b> 男子には調・庸や雑徭といった重い負担が課されていたが、女子はそれらの負担が免除されていたため。	律令制において、収穫した稲を納める「租」は男女ともに課されていましたが、特産物を納める「調」や、都での労役の代わりとなる「庸」、地方での労働である「雑徭」といった重い負担は、主に成人男子を対象としていました。そのため、こうした厳しい労役や現物納の負担から逃れるために、男子を女子と偽って戸籍に登録する「偽籍（ぎせき）」が増えました。当時の統計で女子の割合が異常に高いのは、生存率の違いではなく、この税逃れが原因です。
問5	<b>答え 1</b> 全国の諸国ごとに国分寺・国分尼寺を建て、都の東大寺には大仏を造った	聖武天皇は、都である平城京の東大寺に総国分寺としての役割を持つ大仏を建立するとともに、地方の各国には国分寺と国分尼寺を設置させました。肥前国などの地方の国分寺跡からは、当時使われていた瓦なども出土しており、この政策が全国規模で行われたことが裏付けられています。
問6	<b>答え 1</b> 中央政府から派遣された官吏が国司として地方を統括し、そのもとで現地の有力な豪族が郡司に任命されて実務を担った。	律令制下において、全国は「国・郡・里」の行政単位に区分されました。中央政府（都）から派遣されたのが「国司」であり、地方の行政・司法・軍事の責任者として、現地の事情に詳しい有力豪族から任命された「郡司」を指揮しました。このように、中央から派遣された官吏と地元の実力者を組み合わせることで、地方支配の安定化を図ったのが特徴です。
問7	<b>答え 1</b> 遣唐使が、唐の都である長安に集まっていた西アジアや中央アジアの文物を日本に持ち帰ったため	天平文化が国際色豊かになった背景には、遣唐使の派遣があります。当時の唐の都・長安は、シルクロードを通じて西アジアやインドなど世界各地の文化が集まる国際都市でした。遣唐使がこれらの文化や制度を日本へ持ち帰ったことで、日本でも国際的な性格を持つ文化が開花しました。
問8	<b>答え 1</b> 防人や農民といった幅広い階層の歌が収められ、素朴で力強い歌風が特徴である。	万葉集は、特定の階級に限定されず、天皇から庶民まで多様な身分の歌が収められているのが最大の特徴です。柿本人麻呂のような宮廷歌人が活躍する一方で、辺境の警備に駆り出された「防人」の悲哀や家族への思いを詠んだ歌も収録されており、当時の社会状況を幅広く反映しています。また、表記には漢字の意味や音を借りた「万葉仮名」が使われています。